

大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム



大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム

- 募集人数(1学年) 12名

- **内科基本コース**

高度なGeneralistを目指す場合、Subspecialtyが未定な場合
3年かけて内科全体の研修を偏りなく行う

- **Subspecialty重点コース**

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコース。最初の
1～2年で必要な症例を経験、(現状)2～3年目にSubspecialty
領域を重点的に研修。2年目以降、大学院への進学も可能。

指導体制

プログラム統括責任者 兼 研修委員会委員長

坂田泰史（循環器内科教授）

副プログラム統括責任者

楽木宏実（老年・総合内科教授）

プログラム管理者

竹原徹郎（消化器内科教授）

日本内科学会指導医

125名

以下のサブスペシャリティー専門医が定常的に在籍しています。

日本消化器病学会消化器病専門医

日本肝臓学会肝臓専門医

日本循環器学会循環器専門医

日本糖尿病学会糖尿病専門医

日本内分泌学会内分泌代謝科専門医

日本腎臓学会腎臓専門医

日本透析医学会透析専門医

日本呼吸器学会呼吸器専門医

日本血液学会血液専門医

日本神経学会神経内科専門医

日本アレルギー学会アレルギー専門医

日本リウマチ学会リウマチ専門医

日本老年医学会老年病専門医

阪大プログラムの連携施設

- 市立池田病院 (豊能圏における地域密着総合病院)
- 市立豊中病院 (豊能圏における地域密着総合病院)
- 箕面市立病院 (豊能圏における地域密着総合病院)
- 住友病院 (大阪市に位置する都市型総合病院)
- 日本生命病院 (大阪市に位置する都市型総合病院)

- 国立循環器病研究センター (循環器、神経)
- 大阪刀根山医療センター (呼吸器、神経)
- 淀川キリスト教病院 (腎臓、神経)
- 大阪国際がんセンター (消化器、血液、呼吸器、代謝)
- 桜橋渡辺病院 (循環器)
- 堺市立総合医療センター (血液、免疫、呼吸器、消化器、内分泌、腎臓)
- 紀南病院 (循環器)

阪大プログラムのコンセプト

- ◆大阪大学の内科全体で専攻医を育てる
- ◆教育機会の充実化を図る
- ◆学術活動に関して高い目標をおく
- ◆それぞれ特色のある連携施設で、特徴ある専門研修を実施する

阪大プログラムのコンセプト

- ◆ 専攻医を対象とした研修会(レクチャー)を定期的に開催します。テーマは内科全体にわたり、先進的な内容を盛り込みます。さらに、医学英語や臨床統計疫学についても取り上げ、国際的な臨床研究の基礎を教育します。
- ◆ 内科全診療科の科長が出席のもと、内科全体での症例検討会を定期的に行います。専攻医は研修中、必ず1回はこの場でプレゼンを行い、討論に加わり、指導をうけます。
- ◆ 国内の学会発表だけでなく、国際学会での発表も目標とします。また、論文発表も可能なかぎり行うように指導します。
- ◆ 本プログラム中に大学院に進学した専攻医には、内科専門研修に支障を来さない範囲で、研究指導を積極的に行っていきます。

基本コースのKKRパターン

内科基本コース KKRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5			病棟6			病棟7			予備(不足症例用)		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設 A											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A: 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、住友病院、日本生命病院

基本コースのRRKパターン

内科基本コース RRKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設 A (common diseaseと地域医療を経験)											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設 A (common diseaseと地域医療を経験)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当									専門医取得のための病歴要約提出準備		
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	病棟1	病棟2	病棟3	病棟4	病棟5	病棟6						
	基幹施設で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修											
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

3年目の基幹施設での研修は、原則各科をローテートしていくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A: 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、住友病院、日本生命病院

Subspecialty重点コースのKKRパターン

Subspecialty重点コース KKRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1		病棟2			病棟3			病棟4			
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5		病棟6			病棟7			予備(不足症例用)			
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設B (Subspecialty領域を重点的に研修)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設B: 国立循環器病研究センター病院、大阪刀根山医療センター、桜橋渡辺病院
 淀川キリスト教病院、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、紀南病院

Subspecialty重点コースのKRRパターン

Subspecialty重点コース KRRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A（1年目にローテートしてない領域を研修）											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う									専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設B（Subspecialty領域を重点的に研修するとともに充足していない症例を経験） （1年目の3か月と合わせてSubspecialty領域重点研修期間は最長1年とします）											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、住友病院、日本生命病院

連携施設B： 国立循環器病研究センター病院、大阪刀根山医療センター、桜橋渡辺病院
淀川キリスト教病院、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、紀南病院

Subspecialty重点コースのRRKパターン

Subspecialty重点コース RRKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当									専門医取得のための病歴要約提出準備		
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	基幹施設 (Subspecialty領域を重点的に研修するとともに不足症例を経験) (希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を研修します)											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

連携施設A: 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、住友病院、日本生命病院

Subspecialty重点コースのRKKパターン

Subspecialty重点コース RKKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟1	病棟2	病棟3	病棟4	病棟5	病棟6						
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	主科 (希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を重点的に研修します)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

2年目は原則各科をローテートして不足症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A: 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、住友病院、日本生命病院

各診療科の紹介

阪大腎臓内科の特徴

内科医としての総合的能力を養える

ジェネラリストになるには腎臓内科が最適

種々の疾患で腎機能が低下する



自ずと幅広い診療領域に関わる

定期的な症例検討会・研究会で
診療レベル向上が図れる

腎臓内科医は研究会大好き！

- 大阪腎臓研究会（OCKD）
- 阪大腎病理カンファレンス
- 腎臨床病理検討会
- 中之島カンファレンス

急性期から慢性期まで

おとなしい方もアクティブな方も

静



動



移植医療に関わることができる

内科医が移植患者さんを診る時代です
年間20-30例の腎移植を行っています

腹膜透析が学べる

4人の女医さんが専門外来を担当しています
通院腹膜透析患者30人は関西最多

阪大腎臓内科の特徴



古くて新しい阪大腎臓内科

1955年、第一内科腎臓研究室として創始
2015年腎臓内科として独立

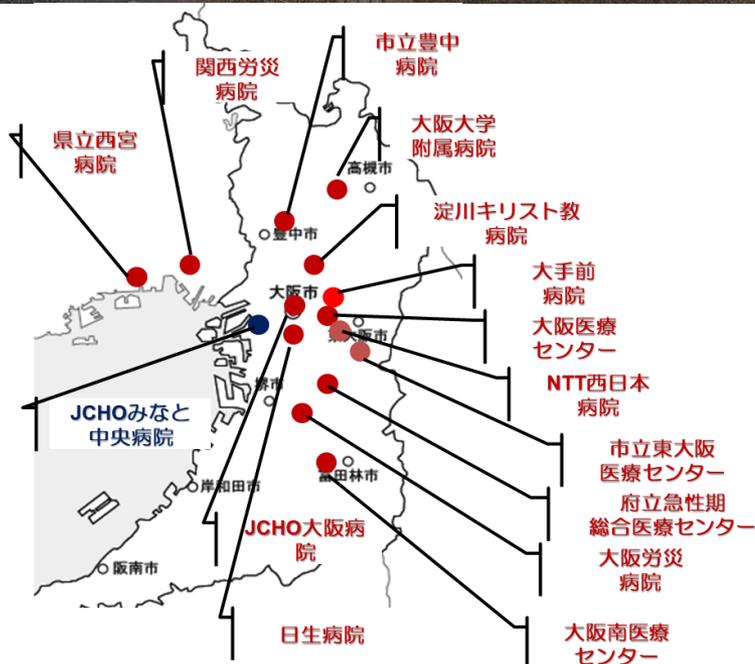
関西で腎臓内科を専攻するなら阪大に!!

関西の主な腎臓内科がある病院は阪大関連
ほぼすべてが基幹プログラムをもっています

プログラム修了後の進路も多彩です

伝統的に国内・国外留学者多数
研究も基礎から臨床研究まで濃厚に・・・
透析クリニックへの転職も可能

女医さんが増えています！



老年・総合内科のキャリアパス

卒後3~4年

内科専門医取得後3~4年

生涯教育

内科専門医取得

サブスペシャリティとして老年病専門医取得

医師としての
基礎を作る
(2年間)

専門の
窓を持つ
(2~4年間)

臨床
コース
研究生

- 2つ目の専門医のため大阪
大学関連病院を中心に診療
- 後期研修期間を含んで少なく
とも1年間は阪大病院 老年・
高血圧内科で診療
- 臨床研究で論文博士号取得

臨床
コース
大学院

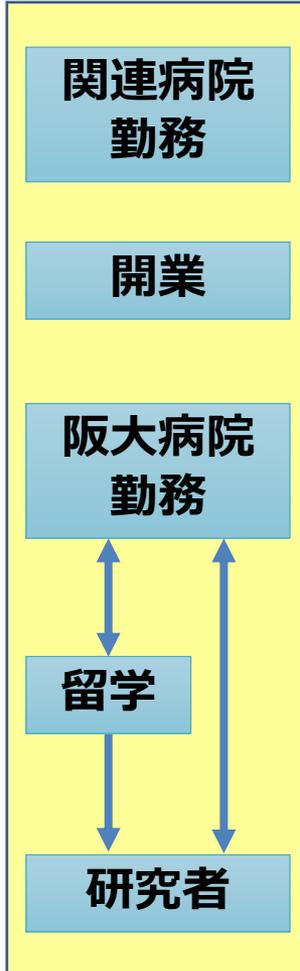
- 老年・総合内科学講座に所属
し、阪大病院や関連病院で臨
床研究
- 2つ目の専門医は、後期研修
を中心に必要要件を整える

基礎
コース
大学院

- 1年目は阪大病院で診療し、
老年病専門医を取得する
- 2年目から老年・総合内科学
講座、臨床遺伝子治療学講座、
健康発達医学講座などに所属
し基礎研究
- 2つ目の専門医は、後期研修
を中心に必要要件を整える

初期研修
全国の研修病院
すべて

後期研修
阪大病院
老年・高血圧内科
総合診療科
または
大阪大学関連病院
老年内科
総合診療科



入局はいつでも
問題ありません

専門医：老年病専門医のほか、総合診療専門医、高血圧、認知症、糖尿病、抗加齢医学など

博士号：大学院（社会人大学院を含む）の課程博士、関連病院での臨床研究による論文博士

Successful Aging (Rowe & Kahn, 1987)

長寿
高い生活の質
社会貢献

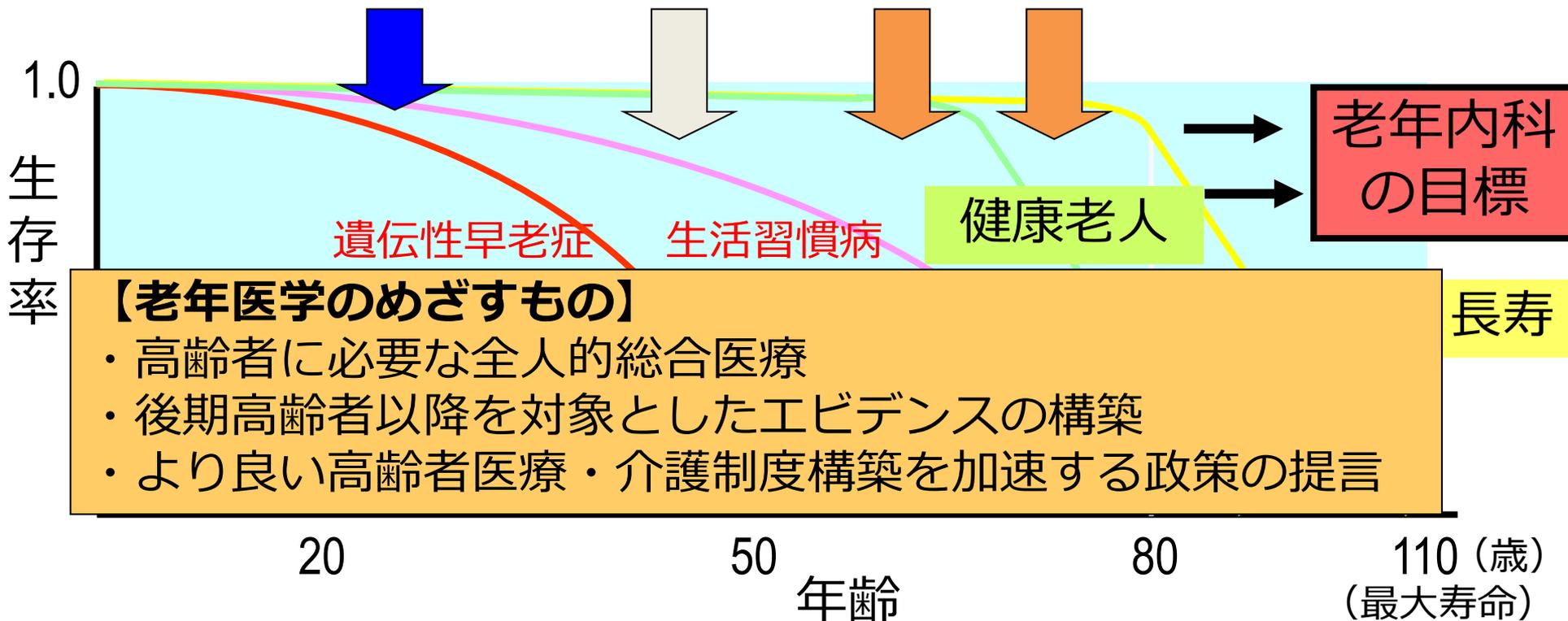
老年医学は心身の健康からサポートする

全人医療
テーラーメイド医療
再生医療

老化機序
の解明

予防
医学

高齢者へ
の医療



老年内科
の目標

長寿

【老年医学のめざすもの】

- ・ 高齢者に必要な全人的総合医療
- ・ 後期高齢者以降を対象としたエビデンスの構築
- ・ より良い高齢者医療・介護制度構築を加速する政策の提言

阪大病院 糖尿病・内分泌・代謝内科学の特色

国内最大の糖尿病・内分泌・代謝内科学教室



- 教授；下村伊一郎
- 教室員約70名、同窓会会員約500名。日本最大規模の糖尿病・内分泌・代謝内科学教室。
- 「佳き主治医と医学貢献」の方針のもと、日本そして世界の医療・医学への貢献を常に目指し、多くの実績を積み上げています。
- 全身を相手にする統合内科学としての診療学問領域。糖尿病・内分泌・代謝疾患のスペシャリストと同時に、内科のジェネラリストも育成。
- 女性医師も多数在籍。結婚・出産・育児への対応、キャリアアップ、また教官や関連施設部長、留学と多くの女性医師が高いレベルで活躍。

教科書を書き換える世界一流の研究業績 当科は全身の臓器・血管を相手にします

- 内臓脂肪症候群 (Visceral Fat Syndrome)
メタボリックシンドローム概念発祥の地
- アディポネクチン (Adiponectin)
脂肪細胞由来ホルモンであるアディポネクチンの発見とアディポサイトカイン概念の提唱
- 転写因子 MafA
最も強力なインスリン転写因子であり膵β細胞再生にも重要な因子の発見
- 劇症1型糖尿病 (Fulminant Type 1 Diabetes)
1型糖尿病の新たなsubtype (疾患entity) の確立
- グルココルチコイドによるTSH不適切分泌症候群
新たな内分泌疾患概念の提唱



阪大 糖尿病・内分泌・代謝内科の充実した指導体制と多くの関連施設

多種多様な専門医・指導医による 手厚い病棟指導体制！

病棟医療チーム

統括医(講師クラス)



指導医(助教クラス)



主治医(専攻医)



担当医(初期研修医)

- 研修医を含む20名強の医師が3-4名のチームを組み、診療に従事。
- 各専門領域のチーフによる専門回診、科長による総回診を週1回実施。
- 医局員が一同に介する診療科カンファレンスを毎週行い、多角的な視点からの質の高い診療を担保。
- 教室員全員がそろって研究カンファにて多くの臨床研究や最先端の基礎医学研究に触れることが可能。

当教室で取得可能な専門医

糖尿病専門医

内分泌代謝科専門医

甲状腺専門医

肥満症専門医

動脈硬化専門医

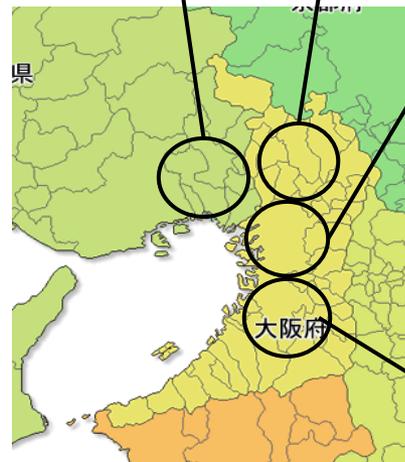
多数の関連施設

市立池田病院
市立豊中病院
市立吹田市民病院
箕面市立病院
済生会千里病院

市立伊丹病院
近畿中央病院
市立川西病院
関西ろうさい病院
県立西宮病院
西宮市立中央病院
川崎病院

大阪国際がんセンター
大阪急性期・
総合医療センター
大手前病院
大阪警察病院
国立病院機構
大阪医療センター
JCHO大阪病院
住友病院
日本生命病院
大阪回生病院
第二大阪警察病院
(旧・NTT西日本大阪病院)
大阪みなと中央病院

大阪労災病院
堺市立総合医療センター
りんくう総合医療センター
国立大阪南医療センター
市立東大阪医療センター
八尾市立病院
ベルランド総合病院



内科専門研修後は、研究・臨床・教育で第一線のプロフェッショナルへ！

(連絡先) 教育研修担当 kensyu@endmet.med.osaka-u.ac.jp

阪大病院 免疫内科 ～全身を診る内科～

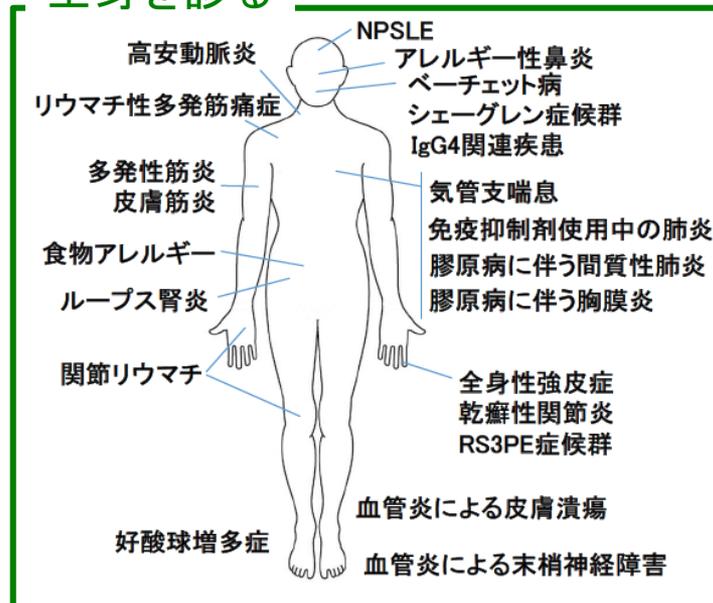
目指すのは「内科専門医＋免疫疾患の専門医＋免疫学者」

臓器にとらわれない“人”を診る内科医を育成

免疫疾患を診断するためには、悪性腫瘍や感染症など多くの内科疾患を鑑別する必要があり、免疫疾患の知識だけでなく、内科総合力が磨かれます。関連病院と連携することでCommon diseaseから合併症の多い複雑な疾患・希少疾患まで十分な症例を経験できます。阪大免疫研究は世界ランキング1位の研究実績と伝統があり、大学院では最先端の研究も経験でき、臨床研究共に教育環境も充実しています。

大阪大学学内外を問わず、誠実で熱心な医師を募集しています！

全身を診る



教室関連病院



免疫内科を勧める10の理由

- 1 様々な症状を鑑別、全身臓器を検索し、急性期・維持期ともに診療します。
診断にあたり皮膚や関節を含め各臓器を横断的に検索していきます。
- 2 20代のSLEから80代のリウマチ性疾患まで多彩な年齢層で様々な疾患を診療します。
よくあるアレルギー疾患やリウマチ性疾患から稀な免疫疾患まで鑑別して最適な治療を選びます。
- 3 免疫疾患のスペシャリストと同時に内科のジェネラリストを目指します。
免疫疾患をしっかり診療していくと、自然に内科ジェネラリストの力が付いていきます。
- 4 整形外科的知識も身に付き、感染症にも強くなります。
関節レントゲン読影や関節エコー、各種感染症の診断と治療にも長けます。
- 5 最先端の各種生物学的製剤を先導していきます。
免疫分子に対する阻害抗体が次々と現場に登場し、その効果を臨床で実感できます。
- 6 免疫内科の専門医は各地で求められています。
リウマチ科、アレルギー科、膠原病内科と呼ばれますが、私達は免疫疾患を免疫内科として診療します。
- 7 大阪大学では免疫学研究が非常に盛んです。
免疫学は阪大の得意分野で、世界的な免疫学者が多く活躍し、免疫内科と共同研究しています。
- 8 途中から研究の世界に進むことも選択肢です。
大学では「臨床での問題点を研究に、研究の成果を臨床へ」と、常に考えています。
- 9 免疫内科の臨床研修は人口が集中している大阪圏が最適です。
- 10 出身大学を問わず、自由闊達で女性医師にも優しい雰囲気が教室にはあります！

呼吸器・免疫内科学ホームページ <http://www.imed3.med.osaka-u.ac.jp>
連絡先: t-morita@imed3.med.osaka-u.ac.jp (森田までお気軽にご連絡ください)

大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科



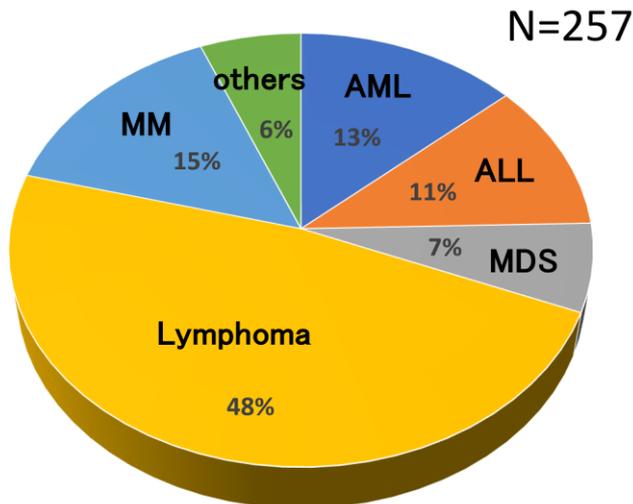
- ・国立大学初の「血液・腫瘍内科」を標榜。25年の歴史。
- ・金倉 讓教授:日本血液学会 前理事長、日本の血液学を牽引
- ・女性医師も多数活躍

充実の研修内容！

良性疾患から悪性疾患
造血幹細胞移植(自家、同種)、新薬、治験まで

多数の関連施設！

特定機能病院から地域の基幹病院など多数

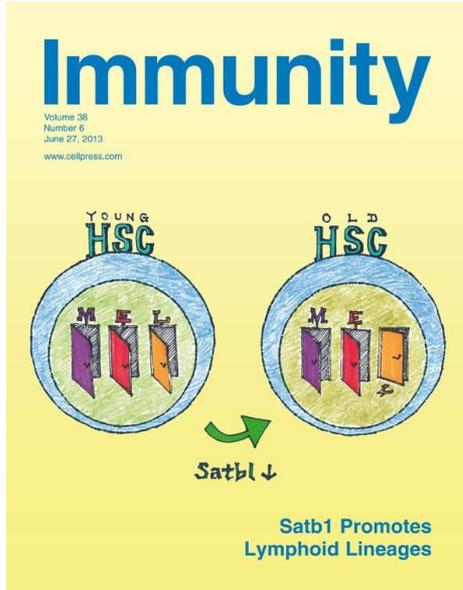


入院症例の疾患別割合 (2016年)

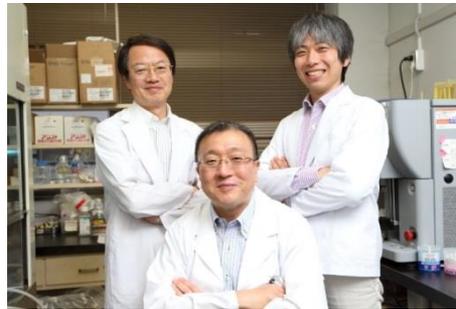


ハイレベルな研究グループ

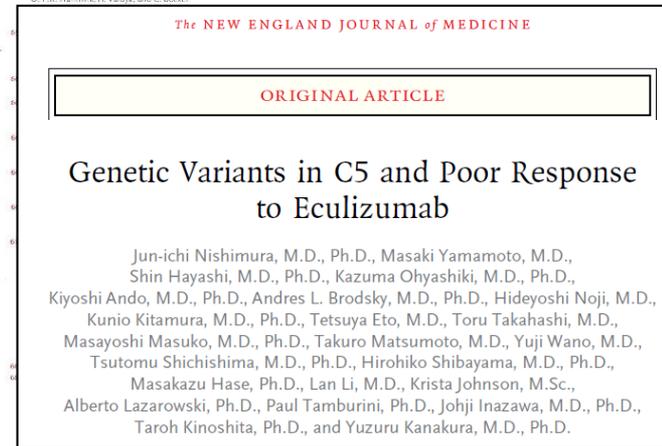
基礎から臨床まで！



免疫学のトップ雑誌
「Immunity」の表紙を飾
りました。



New England Journal
of MedicineにPNHの
研究が掲載されました。



・ 関連病院と共に臨床試験グループ
「HANDAI-CBC」を結成、協力して
診療・研究に取り組んでいます。

・ ヨーロッパ血液学会、アメリカ血液学会
などで成果を毎年発表しています。

連絡先

阪大 血内

検索



大阪大学大学院医学系研究科(C9) 血液・腫瘍内科 企画情報室
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

TEL:06-6879-3871 FAX:06-6879-3879

E-mail: ikyoku@bldon.med.osaka-u.ac.jp



大阪大学消化器内科の特色



- ◆ 竹原徹郎教授主宰
- ◆ 教室員；約70人、同窓会員；約800人
- ◆ 関連病院が大阪府/阪神間に位置し、強固なネットワークを有する
→Osaka Liver Forum, Osaka Gut Forum, Osaka Pancreas Forum
- ◆ 多様な疾患領域をカバーし、それぞれの領域で高い専門性を有する医師がいる
- ◆ 臨床、基礎ともに国際的に非常に高いレベルで研究を行っている

消化器内科関連病院

大阪大学医学部
附属病院



診療

- 診断技術(内視鏡・画像検査)の更なる進歩
- 内視鏡治療や薬物療法等の内科的治療の更なる拡充
- オミックスデータに基づいた個別化医療の実現
- AIを用いた診療能力の向上

研究

- 疾患病態生理の分子基盤解明、臨床検体を用いた研究
- 分子基盤に基づいた新規バイオマーカー・薬物療法探索
- 橋渡し研究(動物モデルを用いた前臨床試験)
- 高品質・大規模前向き臨床試験

消化器内科における研修とキャリア



多様な疾患と技術

- 多くの臓器を診療対象とし、急性期から慢性期まで、多様な疾患を経験することが可能です。
- 多彩な治療手技があり、疾患をCureできることが特徴の一つです。
- 内科医としての基礎知識や全身管理を学ぶことができます。

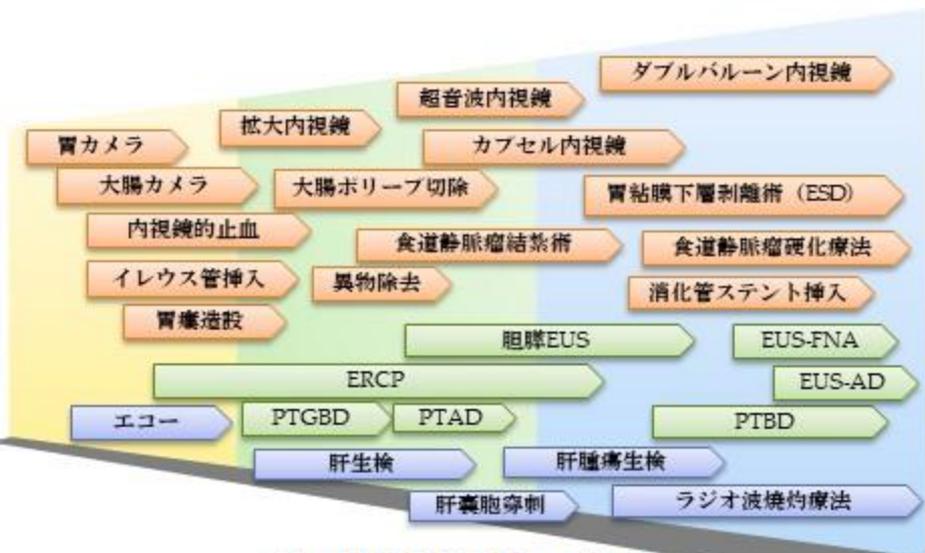
充実した指導体制

- 中規模から大規模の関連病院に内科学会、消化器病学会、肝臓学会、消化器内視鏡学会の専門医、指導医が指導する体制が整っています。
- 内科学会、消化器病学会、肝臓学会、消化器内視鏡学会をはじめ多種多様な専門医を取得できます。
- 基幹関連病院が多く、自分にあった研修をすることができます。
- 全人的医療と科学的な視点を持つことを重要視しています。

多彩なキャリアパス

- 臨床経験を十分に積んだのちに、大学院進学を選択が可能です。
- 大学教員、海外留学、関連病院勤務医、省庁勤務、産業医、健診施設勤務、開業など様々なキャリアパスがあります。
- 女性医師も多く、出産・子育て期間にも十分な支援体制があります。

→連絡先; y.hayashi@gh.med.osaka-u.ac.jp



診療技術習得の過程

循環器内科：大阪発の新しい循環器医療を 世界の患者さんに届ける

阪大病院での臨床

心臓移植実施施設：
重症心不全の最後の砦
移植専攻医プログラム

最先端医療：
ゲノム医療
再生医療

基礎となる基礎知識・全身管理・
治療戦略の教育を重視

関連病院の充実

ハイボリュームセンターから地域医療まで
ほぼ全てが循環器学会研修施設
指導者・症例数が充実



OCVC:大阪循環器部会

関連施設35病院



循環器内科の特徴

様々な診断・治療技術があります

診断	心電図、画像診断（エコー・カテーテル・CT・MRI・シンチグラフィ）、 モニタリング（血行動態、酸素飽和度）
治療	薬剤、カテーテル治療（冠動脈・不整脈・弁膜症）、 デバイス（ペースメーカー、植込型除細動器、心室再同期療法）

全身管理と救急対応を習得できます

循環器疾患 = 救急疾患、心不全 = 全身疾患

教育体制が充実しています

多数の指導医・シニアスタッフ
カンファレンスの充実

	月	火	水	木	金
朝	重症症例カンファ	重症症例カンファ	重症症例カンファ	重症症例カンファ	重症症例カンファ
	ハートセンター 内科外科合同教授回診			教授回診	
夕	内科外科合同心不全カンファ 内科外科合同弁膜症カンファ 内科外科合同TAVIカンファ カテ検討カンファ	多職種合同 カルテ回診 移植検討会 (第1選目)	(循環器内科抄読会)	病理カンファ (不定期)	



阪大病院 呼吸器内科

多くの先輩たちが、大学を経由して様々な方面で活躍しています。

(初期研修)

専門研修



大阪大学医学部附属病院 呼吸器内科

関連病院 (地域の基幹病院)

大阪急性期・総合医療センター、大阪警察病院、
近畿中央病院、済生会千里病院、市立吹田市民病院、
市立豊中病院、市立箕面病院、西宮市立中央病院、
日生病院。

関連病院 (呼吸器疾患専門病院)

大阪国際がんセンター、大阪はびきの医療センター、
大阪府結核予防会大阪病院、近畿中央胸部疾患センター、
刀根山病院。

大阪大学大学院 医学系研究科 呼吸器・免疫内科学
(基礎研究 ・ 臨床研究 ・ 先進医療)

呼吸器専門診療

海外留学・大学教員・呼吸器専門施設上級医師 など

阪大病院 呼吸器内科の特徴

診療科の体制

(1) 呼吸器センター

呼吸器内科と呼吸器外科が同一病棟「呼吸器センター」で一体的な呼吸器診療。

(2) 研修医の主体的な診療参加

研修医も主体的に診療に従事し、カンファレンスでも積極的に発言。

(3) 積極的な手技の習得

気管支鏡検査や、胸腔穿刺・胸腔ドレーン挿入など。

(4) 学会発表への参加

指導医の十分な指導とバックアップがあるので、積極的に挑戦。

教育に関する行事：指導医のみでなく、呼吸器内科スタッフ全員でバックアップ。

オリエンテーション、レクチャー、病棟回診、症例検討会（カンファレンス）、

勉強会、抄読会、呼吸器センター合同カンファレンス。

随時、呼吸器疾患の学習や関連病院紹介を目的としたセミナーを開催しています。

ホームページ 呼吸器・免疫内科学

<http://www.imed3.med.osaka-u.ac.jp/index.html>

連絡先のアドレス resp@imed3.med.osaka-u.ac.jp

大阪大学医学部附属病院

神経内科・脳卒中科



エビデンスに基づいた鑑別診断・検査・治療方針について徹底討論し、あらゆる問題にひとりで対処できる臨床能力を身につけるよう指導します。神経内科系・脳卒中系疾患ともに専門的な研修が出来ます。

神経内科疾患(日本での患者数)

- ・頭痛 3000万人
- ・脳卒中 3大死因、寝たきり原因の30%
後遺症患者数170万人、年間発症63万人
- ・認知症 300万人
- ・てんかん 100万人
- ・パーキンソン病 147万人(平成17年)
- ・その他の変性疾患も高齢化とともに増加傾向

新しい治療法の例

- ・片頭痛 トリプタン製剤
- ・急性期脳梗塞 血栓溶解療法
- ・認知症 コリンエステラーゼ阻害剤
- ・パーキンソン病 毎年のように新薬導入
- ・多発性硬化症 インターフェロン、免疫抑制剤
- ・免疫性神経疾患 γ グロブリン療法、血漿交換
- ・不随意運動 ボツリヌス毒素治療

神経内科・脳卒中科専門研修プログラム

大学、関連施設など、数箇所ですべて 計3～5年間研修

頭痛、脳卒中、パーキンソン病といったcommon diseaseから稀な疾患まで
神経救急から難病の慢性期医療・呼吸などの全身管理、リハビリテーションなど幅広く

初期研修2年

阪大病院 (1～2年間)

連携施設 (1～2年間)

大阪大学関連施設
サブスペシャリティ研修
専門医の資格を取得

大阪大学神経内科
大学院博士課程
(基礎・臨床研究)

関連施設指導医

留学、研究職
関連施設指導医

認定医・専門医
総合内科専門医
神経内科専門医

脳卒中専門医
臨床神経生理学会認定医
リハビリテーション科専門医
臨床遺伝専門医
脳血管内治療専門医
てんかん専門医
認知症専門医
頭痛専門医

**「大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラム」
に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください！**

連絡先: 大阪大学医学部附属病院内科系科事務局
阪大プログラム担当 教育研修担当
TEL: 06-6879-3732、FAX: 06-6879-3739
E-mail: kensyu@endmet.med.osaka-u.ac.jp